第７回　飛騨地域議員研修会参加報告書

平成３０年２月１０日

高山市政クラブ
参加者：渡辺　甚一　　今井　武男
溝端　甚一郎　　松葉　晴彦
北村　征男　　榎　隆司

１　研修日及び場所

研修日：平成２９年１０月３１日
場　所：飛騨市古川町　八ツ三館

２　研修名と研修目的

研修名：飛騨地域議員研修
研修時記念講演
「人口問題」～岐阜県と飛騨地域における現状と課題～
講師：飛騨市長　都竹　淳也　氏

目的：人口問題の現状と対策についてを知ることと飛騨地域の議員各位との意見交換

３　記念講演の内容

（１）岐阜県の人口動向

①　平成１２年（２０００年）２，１０７，７００人、平成１７年の国勢調査で初の減少状況となり、平成２７年（２０１５）２，０３１，９０１人で、０－１４歳：１３．２％、１５－６４歳：５８．７％、６５歳以上：２８．１％が平成５７年（２０４５年）には1，５１３，３００人で０－１４歳：１１．４％、１５－６４歳：５０．１％、６５歳以上：３８．５％と高齢社会となる。

②　「なぜ人口は減少しているか」
死亡数が出生数を上回る自然減少に転じたことに加え、転出者が転入者を上回る社会減少（転出超過）が続くことが原因である。
平成２７年では人口減が自然増減数▲６，３５２人（日本人▲６，５８１人）、社会増減数▲５，３６０人（日本人：５，９９５人）となっている。
また、平均寿命は延びているが死亡数は一貫して増加している。

③　「人口増減数」

生まれる子どもの数より亡くなる人の数が多い自然減が拡大。平均寿命が延びても、死亡数は当分増加を続けるとみられる。

④　「社会増減」

・日本人の流出を外国人の流入でカバーしていたが、経済危機後外国人も流出に転じ大幅な転出超過。
・住宅事情による転入が減少し、職業・結婚・学業による転出超過。
・転出超過の中心は２０代の若い世代が職を求めて県外に出る。
・県内の高校生は８割以上が県外へ進学。

⑤　「若者流出の原因」

・高学歴化に伴って、大企業・サービス業志向が高まる結果流出。
・県外への通勤・通学者が多いと結婚を機に転出。

（２）飛騨地域での人口動向

①　飛騨地域の人口は１４万９千人で一貫して減少中で、特に２００５年頃から急減しており、２０４０年には約１０万人になり現役世代と高齢者の数と同じ水準になる。

②　主な移動理由でみた社会動態をみると、職業上では２０代が多く、学業でも１０代から２０代が多い。

③　飛騨地域間の転入転出は、飛騨市から高山市へ、下呂市から高山市への状況が多い。

（３）人口構造の変化に伴って起こりうること

①　現役世代の負担が増加し、経済にマイナス影響を及ぼす（人口オーナス）。

②　要介護（支援）認定者は７５歳以上は８割以上を占める。

③　医療を要する人は６５歳以上になると急増し、入院患者は７５歳以上で劇的に増える。

④　病院・診療所で死亡するケースが約８５％を占めており、今後死亡者数が増加すると看取り先の確保が困難になる。

⑤　地域内消費が減る。

⑥　働く人の減少、特に若い世代の働き手が減る。

⑦　子どもの出生数は２０４０年までに約４割、約７３００人減少する。

⑧　学校の運営が厳しくなり、子どもを対象にしたビジネスも見直しが余儀なくされる。

（４）少子化の３つの要因

①　「母となる世代の女性人口の減少」

長く続いた少子化により、母となる女性の人口が減っているため、出生率は維持できても生まれる子どもの数は減っていく。なお、出生率は人口が減らない水準（人口置換水準）＝２．０７に劇的に回復しても、人口減少が止まるのには約６０年かかる。

②　「未婚者の増加」

・結婚している女性が生む子どもの数はあまり低下していない。むしろ３０代では上昇傾向にあるが、若い世代の未婚率はさらに上昇し３０代前半では男性の半数近く、女性の３割が未婚である。生涯未婚率も県は男性の２０．１％、女性は１０．０％と更に上昇。全国では男性４人に１人、女性７人に１人が生涯未婚。

・２５歳以下の若者は結婚するための積極的な動機を感じていない。また、２５～３４歳になると、適当な相手が見つからず「結婚できない」と感じる人が半数近くいる。

③　「晩婚化及び晩産化」

・岐阜県の平均初婚年齢は２０１５年で、男性は３０．４歳、女性は２８．５歳である。子ども出産時の母親の年齢は年々上昇し１５年間で２．４歳上昇している。

・結婚年齢が高くなり晩婚が進むと子どもの数は減少する。また、女性の年齢が３５歳を過ぎると妊娠する力が急激に低下する。

・晩婚・晩産に歯止めをかけ、２０歳代の有配偶率を上げることで出生率が改善される。

（５）人口減少に関する誤解

①　<u>出生率が上昇すれば、直ちに出生数も増える</u>

↓

長く続いた少子化により、女性の数も減少しているため、出生率が少々上昇しても直ちに出生数が増えることはない。

② 近年の出生率は改善傾向にあり、少子化から脱出し人口減少も止められるはず。

↓

合計特殊出生率が人口が減らない水準（人口置換水準）２．０７まで回復しない限り、人口は減り続ける。上昇したと言っても、Ｈ２７の出生率は岐阜県１．５６で上昇幅はわずかにとどまり、まだまだ人口置換水準にはほど遠い。

③ 出生率を人口が減らない水準（人口置換水準）２．０７に回復させ、人口減少を回避すべき。

↓

日本の人口は中高年層が多く、若い世代ほど少ない。母となる女性人口は減少し、生まれる子どもより亡くなる人の方が多く、構造的に人口が減少する。出生率が２．０７まで回復し、それが続いたとしても、人口減少が止まるまでは約６０年かかる。なお、出生率の回復が早いほど、人口減少の規模が緩和されるのは当然のこと。

④ 人が減るなら、移民・移住でカバーすればよい。

↓

人口減少は生まれる子より亡くなる人の方が多い時代になったことによる。現在でも▲２５万人のマイナス。外から人を連れてきて補えるような数ではない。

（６）人口減少対策はどうあるべきか

人口減少対策は、「対応戦略」と「適応戦略」である。

＜対策１：対応戦略＞

- 対応戦略は、少子化を止め、人口減少による影響を消してしまおうというものであり、一般的には「少子化対策」のことをいう。この戦略の効果が現れるのは３０年～５０年先であることを認識しなければならない。成果を得るのは、子どもや孫の世代であり、我々はこの恩恵に預かることはないが、子孫のためにやるのである。したがって、即効性を求めてはいけないし、「費用対効果」を論じてもいけない。
- 少子化対策を「増子化対策」と位置付ける際のポイントは次の４点である。

①結婚を促進すること。特に見合いに代わる出会いの場づくりに取り組むこと。
②２０～３０歳代の経済的な安定（特に正規雇用の促進と実収入の増加）を図ること。
③女性の妊孕性低下に関する教育を中学生頃から積極的に行うこと。
④特に２０歳代の夫婦に対し、第２子以降の出産に対する支援策、育児と仕事の両立策等を充実させること。

＜対策２：適応戦略＞

- 適応戦略は、人口減少を前提にしつつ、影響を軽減していくことをいう。
  そのためには、制度や仕組み、ビジネスのスタイルやマーケット、個人の行動形態、ものの考え方などを変える必要がある。
- 人口減少の影響は、あらゆる分野にわたるものであり、人口減少のメカニズムを正しく理解し、自らの仕事、暮らしの領域に当てはめ、自分でできることを考える。とにかくあらゆる知恵を使って、工夫を凝らす。前例がない時代だから、失敗覚悟でやる。これは誰でもできる。しかも、今すぐできる。
- 人が減るなら、交流人口で補う。国内の市場が縮小するなら、少量でも利益が上がる商品を作り出し、都市部や海外に展開する。介護を要する高齢者が増えるなら、健康づくりを進め、元気な高齢者には介護参加してもらう。買い物ができないなら、店を維持するのではなく、配達形式の販売を考える。
- 現実主義の考え方に立って、具体的な政策を展開することが必要。
- 世帯構造の変化にも注目が必要。特に単身世帯、高齢夫婦のみの世帯の増加が顕著になり、家族そのものの形態が大きく変わっている。「夫婦＋子ども」のような世帯が標準でないことを前提に政策を考えていくことが大切。

＜心構え＞

- 変わるというのは苦しいものである。だから、つい「今のまま」を求めたくなる。今のままでも、人さえ増えれば何とかなると考え、少子化対策や移住対策のような「対応戦略」だけで乗り切ろうとする。しかし、今の仕組みや制度、過去の成功・成長体験にしがみつき、従来の手法で時代を乗り切ろうという考えの人や地域は、人口減少時代では必ず滅びる。
- 適応していくために必要なのは、カネではなく「知恵」である。そして、「現実を見据え、常識に疑問を持つ力と、新しいことにチャレ

ンジする勇気」である。

・「知恵」は異質なものの掛け合わせから生まれる。視野を広く持ち、多くの人と交流し、絶えず考え続けること。これが人口減少時代に適応していく力となる。

4　考察

（１）岐阜県・飛騨地域での人口状況について、その数値と理由について理解ができた。

（２）人口減少対策で、どうしても若者定住、特にＵＩＪターン・外国人等の交流で人口増加を図ることを考えてしまうが、若い世代に対しての結婚生活・夫婦生活まで踏み込んだ考え、更に、中学性に対しての妊孕性の大切の指導をする。本当に大切なことと感じた。しかし、平行して若者の定住促進や子育てがしやすい環境整備は必要と考える。

（３）適応していくためには、カネではなく「知恵」であり、新しいことにチャレンジする勇気が大切であり、失敗を恐れないこと。本当に大切なことと考える。

（４）市民みんなで取り組むこともいい、いろんな知恵がぶつかり合えることも進化の一歩である。

（５）飛騨地域の議員との意見交換も「悩みや課題」等、いろいろ情報交換ができ有意義な研修であった。